



小下図

こしたず

日本画 制作工程

写生
(デッサン)



小下図



大下図



本画



概要

小下図（こしたず）は、本画制作に入る前に、作品のイメージや方向性などを練るために描く図を指し、小さなサイズで数多く作成します。「小下絵（こじたえ）」、「エスキース」ともいいます。

小下図の作成は、写生（デッサン）をもとにした構成や、頭の中で想い描いているイメージやアイデアを吟味するためのものです。吟味をもとに必要な写生をあらたにすることもあります。

比較的小さな図で描くことは、全体像を把握、思案がしやすく、明確な作品イメージを構築する手掛かりとしての利点を生みます。また、小さいことで作業も容易になります。

例としては、クロッキー帳などの紙面に作品を想定して四角く線で囲ったフレームを描き、その中に下図を描いていきます。紙面の隅々まで使って大きく描くのもいいですが、小振りなフレームを、一枚の中にたくさん描くことで、小下図を互いに比較する役目もします。逆に、イメージを主にフレームを後から定める方法もあります。

描画材は、鉛筆やコンテなどを用いますが、色彩を中心とした関係性を見る場合は、色鉛筆や水性絵具、パステルなどで彩色して確認します。